

平成27年度



いのちの基金 活用報告書

横須賀市健康部

このたびは「いのちの基金」にご協力をいただき、
誠にありがとうございました。

「いのちの基金」は、
横須賀を「いのちを大切にすまち」にしたい、という思いから、
平成 24 年度に創設しました。

「いのちの基金」では、
皆様からの寄附と同額を市も積み立てることとともに、
寄附をいただいた方に活用実績をご報告をさせて頂いております。

この活用報告書では、
平成 27 年度の「いのちの基金」の積立額や、活用した事業などについて
ご紹介しました。
ご一読いただければ、
有効に活用されていることがおわかりいただけると存じます。

年度終了後、速やかにご報告したかったのですが、活用した金額(決算額)
については、市議会の審議・承認を得る手続きが必要となるため、
この時期になりましたことをご理解いただければと思います。

引き続き「いのちの基金」へのご支援・ご協力を、
よろしくお願いいたします。



横須賀市長 吉田雄人

「いのちの基金」について

1 目的

「いのちの基金」は、「いのちを大切にする都市 横須賀」の実現を目指して、市民の皆様といのちの大切さを共有し、命を育み、守るための医療を支援する費用に活用することを目的に、平成 24 年度に創設しました。

2 特徴

「いのちの基金」には、

- ① 活用する事業を、特定していること。
 - ② いただいた寄附と同額を、市も拠出すること。
 - ③ 寄附をいただいた方に、活用結果を報告すること
- という、3つの大きな特徴があります。

3 「いのちの基金」を活用する事業

医療環境は、年々変化します。

このため、「いのちの基金」を活用する事業は、その時々々の医療ニーズに対応できるよう、定期的に見直しを行う予定ですが、平成 27 年度は、

- ① 不育症治療費の助成
- ② 看護師離職防止研修
- ③ 産科医師確保経費の助成

の3つの事業に、いのちの基金を活用しました。

4 シンボルマーク



いのちの基金

「命」という漢字をモチーフに、人が寄り添い、思いやりのハートと、幸福を表す虹を描いたデザインで、市内在住の奥野和夫さんの作品です。

「いのちの基金」の積立額

1 平成27年度の積立総額は、**9,795,692円**となりました。

－内訳－

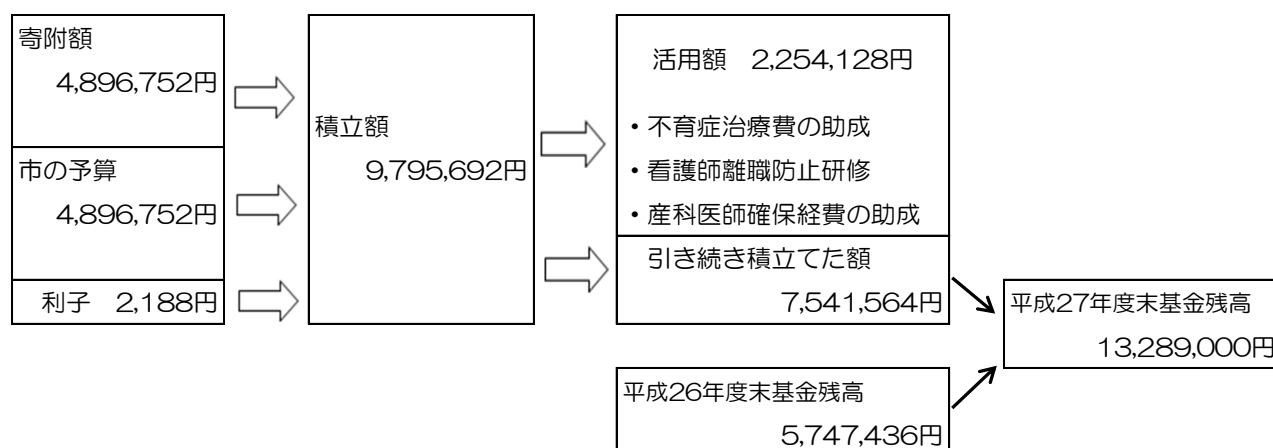
みなさまからの寄附金 28件	1,418,997円 (ア)	
17か所の募金箱にいただいた寄附金	83,755円 (イ)	
ふるさと納税としていただいた寄付金 126件	3,394,000円 (ウ)	
① 寄附金の合計 (ア)+(イ)+(ウ)	4,896,752円	} ①+②+③ 9,795,692円 (a)
	⇕ 同額	
② 市の予算からの積立て	4,896,752円	
③ 基金の運用利子	2,188円	

2 活用した額 **2,254,128円 (b)**

3 引き続き積立てた額 (a-b) **7,541,564円**

※平成27年度末の基金残高は、昨年度末の残高 5,747,436円を加えて、**13,289,000円**となりました。

(積立てのイメージ)



「いのちの基金」を活用した事業

平成 27 年度は、

- 1 不育症治療費の助成
- 2 看護師離職防止研修
- 3 産科医師確保経費の助成

の3つの事業に、「いのちの基金」を活用させていただきました。

1 不育症治療費の助成

(1) 不育症とは

不育症は、妊娠をしても、流産・死産などを繰り返して、結果的に子どもを授かることができない症状です。

厚生労働省では、不育症について、「妊娠はするけれど2回以上の流産・死産もしくは生後1週間以内に死亡する早期新生児死亡によって児が得られない場合」と定義しています。原因はさまざまですが、治療によって85%の不育症患者が出産にたどりついていることがわかっています。

正確な不育症患者の数は不明ですが、年間の妊娠届出数や流産の頻度から考えると、毎年妊娠される方のうち、数万人は不育症の可能性があり、不育症は決してめずらしいものではないといえます。

しかし、検査や治療には、健康保険が適用されないものが多く、高額な医療費がかかります。

子どもを望むご夫婦の経済的な負担を少しでも軽くし、あたらしい「いのち」を授かることができるよう、横須賀市では平成24年度から、不育症治療費の助成事業を開始しました。

(2) 基金の活用実績

- (ア) 助成した件数 2件
(イ) 助成した額 347,310 円

2 看護師離職防止研修

(1) 離職防止研修に取り組む背景

神奈川県の人あたり看護師数は、全国的に見て低い状況が続いています。一方で看護師の養成数自体は増えてきていますが、看護師不足は続いています。離職する看護師が多いことが、看護師不足の大きな原因といわれています。

離職防止研修とは

横須賀市では、市立看護専門学校を運営して看護師の育成に努めてきましたが、育てるだけではなく、離職する看護師も減らさないと、看護師不足の解消はできません。

各病院でも独自に看護師を対象とした研修を実施していますが、看護技術の習得を通じて看護師としてステップアップすることを目的とすることが多く、病院内で実施される場合がほとんどです。

本市の離職防止研修は、看護師としてどのようなキャリア形成を行っていくのかという視点に立って実施しています。違う病院の、同じような経験年数の看護師と一緒に受講することで“悩んでいるのは自分だけではない”といった気づきがあり、離職防止の効果が期待できます。

(2) 基金の活用実績

(ア) 研修の開催回数	2回
(イ) 研修の開催費用	300,000円



研修受講者の上司のみなさんからの声

- ・ 毎日の役割に積極性が出てきました。「辞めるかも…」と口にしなくなりました。
- ・ 将来の目標が明確になりつつあり、ステップアップしたいという意欲が高まったようです。
- ・ 仕事に対して責任感がみられるようになりました。仕事全てに自信を無くしていた時期での参加でしたが、参加後は表情が明るく、自信も出てきました。

3 産科医師確保経費の助成事業

(1) 産科医師確保補助金制度

全国的に産科医師が不足していますが、横須賀市では、市民が安心して出産ができるまちづくりを進めるために、産科医師の増加を目的とした、産科医師確保補助金制度を平成 23 年度に創設しました。

この制度は、市内の医療機関が新たに産科医師を雇用して医師数が増えた場合に、横須賀市から補助を行うものです。

一時期、市内では産科医師が9名という危機的な状況にありましたが、平成 27 年度当初には 21 名にまで増加し、出産環境は大きく改善されました。

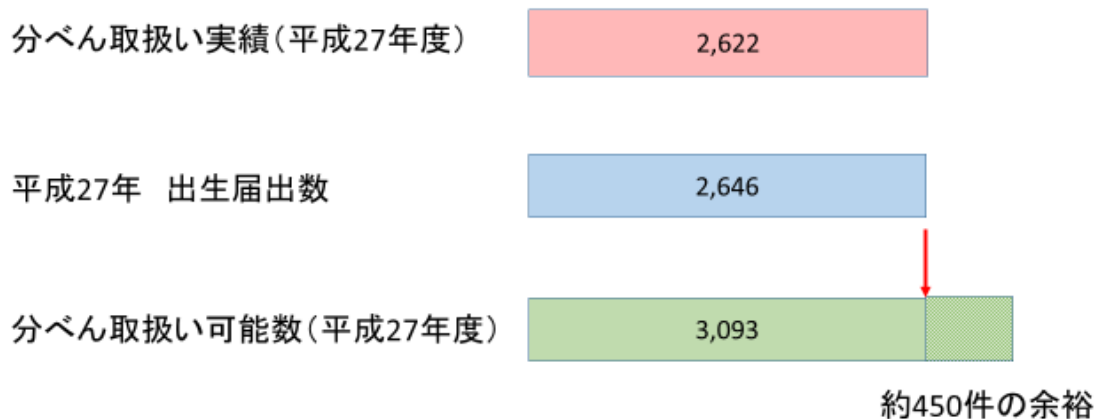
これからも、安心して子どもを産み、育てる環境づくりを進めていきます。

(2) 基金の活用実績

平成 27 年度は、市内の1つの病院が雇用した2名の産科医師の確保経費に 11, 525, 000円の補助を行い、その一部に「いのちの基金」を活用させていただきました。

※横須賀市内の分べん数

※横須賀市内の分べん数



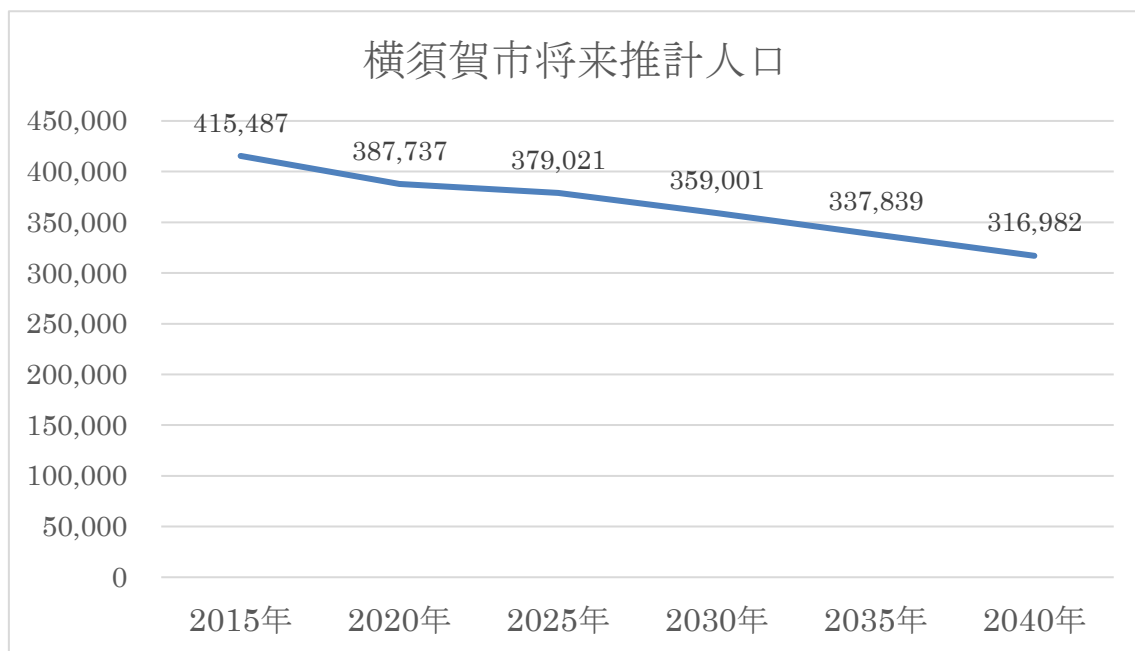
市内医療機関が平成 27 年度に取り扱った分べん数は、合計 2,622 件、平成 27 年に横須賀市で受理した出生届出数は 2,646 人で、ほぼ同数でした。

また、市内の医療機関で分べん取扱いが可能な件数は 3,000 件を超えますので、受入れに十分な余裕があり、市内で出産できる環境が整っていることがわかります。

横須賀の将来人口予測と「いのちの基金」を活用した取組み

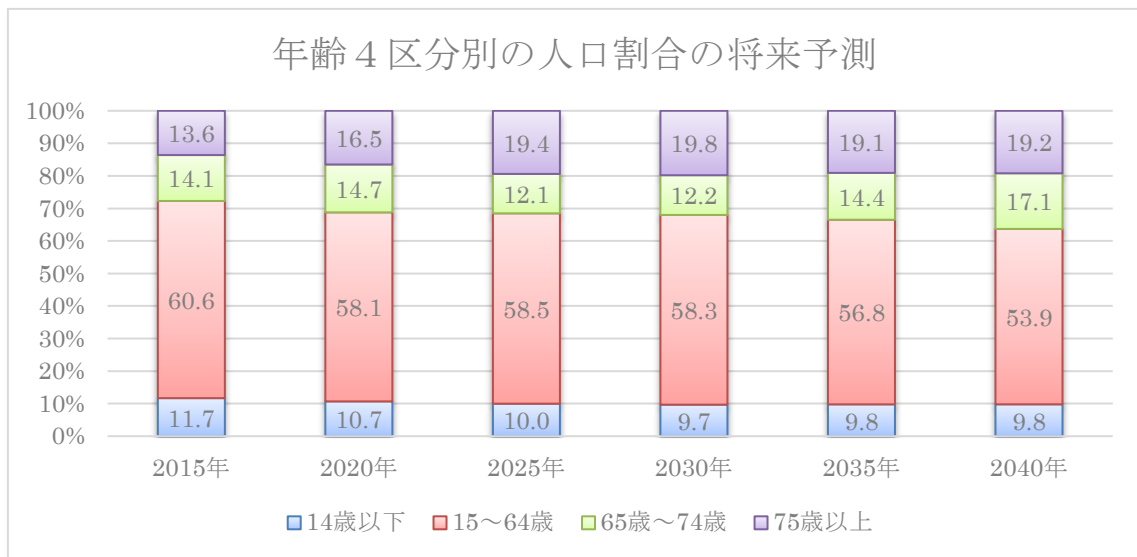
人口減少、年齢・世帯構成の変化は、①子どもの減少による子育て・教育環境への影響、②生産年齢人口の減少による地域経済への影響、③高齢者の増加による生活不安の増大、④世帯の減少による空き家の増加など、市民生活や経済、都市構造など、さまざまな影響を引き起こす可能性があります。

横須賀市では、平成 26 年 5 月に約 25 年後の 2040 年までの人口・世帯の将来予測を行いました。これにより中長期的な視点をもって政策展開を考え、課題に対して早期に対応していくことを考えています。



上記の「人口総数の推移」を見ますと、約 25 年後の 2040 年には本市の人口は約 31 万 7 千人となり、現在から約 10 万人減少すると予測されています。

次に人口の構成の変化を見るために、年齢を4区分(年少人口(0-14 歳)、生産年齢人口(15-64 歳)、老年人口(65-74 歳、75 歳以上))に分けて、将来予測を行いました。



区分ごとに見ていきますと、①年少人口(0-14歳)は、2015年の11.7%から減少していき2040年には9.8%となることが予測されています。

②生産年齢人口(15-64歳)も、同様に60.6%から減少し、2040年には53.9%まで落ち込むことが予測されます。

逆に③老年人口(65-74歳と75歳以上)は、2015年は27.7%でしたが、徐々に割合は増えて2040年には36.3%となります。これは、2040年で3人に1人以上が65歳以上となり、さらに5人に1人が75歳以上の後期高齢者となるという予測です。

※出典)「横須賀の将来推計人口」横須賀市都市政策研究所

このような中、本市では平成28年3月に「横須賀市まち・ひと・しごと総合戦略」として、平成27年(2015年)～平成31年(2019年)の5年間に取り組む目標、基本的な方向、具体的な施策をまとめています。

基本的な目標として、

- ① 市内経済の活性化を図り雇用を創出する
- ② 定住を促す魅力的な都市環境をつくる
- ③ 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる
- ④ 人口減少社会に対応したまちづくりを進める

の4つを定めています。

皆様からお預かりしました「いのちの基金」も、この中の③の目標達成のための「妊娠・出産支援」に関する事業や④の目標達成のための「医療・介護人材の確保・育成」に関する事業に活用させて頂いております。皆様には深く感謝するとともに、今後ともご協力を頂ければ幸いです。本当に有難うございました。

平成27年度のご寄附者 一覧

都甲 静子 様
日本舞踊 藤流家元 様
川戸 利男 様
横須賀三曲会 様
トータルビューティーサロン イブ 様
よこすかパリ祭実行委員会 様
株式会社 日本医療企画 様
石川 悟 様
石川 けさ江 様
横須賀商工会議所女性会 様
横須賀ロータリークラブ 様
医療法人社団 小磯診療所 様
株式会社 ミスターウォッシュマン 様
山元 洋子 様
国際ソロプチミスト横須賀 様
グリーンハイツ「ゆいの広場」 様

※ご寄附をいただいた日付順。

※ご寄附の際に、公表を希望しないとお申し出があった方は除きます。



ご協力ありがとうございました。

「いのちの基金」は、今後も、命を育み、守るための医療を支援する事業に活用していきます。引き続き、ご協力をお願いします。

平成28年12月

横須賀市健康部 地域医療推進課 地域医療政策係

住 所 〒238-0046 横須賀市西逸見町 1-38-11

ウェルシティ市民プラザ3F

電 話 046-822-4751

メール ga-hm@city.yokosuka.kanagawa.jp